



人々の「ために」ではなく、人々と「ともに」

## 2007 年事業計画

特定非営利活動法人 アジア日本相互交流センター(ICAN:アイキャン)

HP: [www.ican.or.jp](http://www.ican.or.jp) E-Mail: [info@ican.or.jp](mailto:info@ican.or.jp)

ADDRESS: 〒450-0003 名古屋市中村区名駅南 1-20-11NPO プラザなごや2F

Tel & Fax 052-582-2244

【目次】	ページ
1、事業実施の方針	2
A、要約	2
B、事業実施の方針	3
2、事務局の運営	5
A、日本事務局	5
B、マニラ事務所	5
C、ジェネラルサントス事務所	5
3、事業の実施に関する事項	6
A、特定非営利活動に係る事業	6
I、危機的状況にある子どもたちと「共に」行う教育プログラム	6
1、フォーマル教育支援事業	7
A、ジェネラルサントスの子どもたち(通学支援)	7
B、ピキットの紛争の影響を受けた子どもたち(学校環境整備向上支援)	7
C、ブストスに住む路上で暮らしていた子どもたち(通学支援)	8
D、サンイシロの先住民族ドゥマガット族の子どもたち(通学支援)	8
E、先住民族ブラアン族の子どもたち(給食支援)	9
2、ノンフォーマル教育事業	10
3、アドボカシー事業	10
II、ごみ処分場周辺での地域開発プログラム	11
1、パヤタスでの保健・医療事業	11
2、パヤタスでの生計向上事業	11
III、相互理解を促進するプログラム	13
1、国際理解教育(開発教育)事業	13
2、フェアトレード事業	14
B:その他の事業に係る事業	14
収益事業	14
1、リサイクルバザー事業	14

# 1、事業実施の方針

## A、事業実施方針要約

### 事業実施方針要約

ICANは日本を含めたアジアにおいて、異なる文化の相互理解を促進し、不公正な社会を主体的に変革していくことができる人材を養成します。そして、経済的・社会的・政治的に弱者として、様々な「権利」を剥奪されている子どもやその家族の尊厳を回復し、人々が暮らすコミュニティの発展に協力する団体として、教育・生計向上・医療の事業をおこないます。2007年は、特に、以下の内容に注力します。

#### I、危機的状況にある子ども達と「共に」おこなう教育プログラム(P.6)

フィリピンの紛争に巻き込まれた子どもや路上生活を強いられた子ども、先住民族の子どもなど、経済的、社会的、政治的な理由により、教育を受ける権利(「子どもの権利」第28条)を保障されていない子どもの中でもより危機的な状況に立たされている子どもと「共に」包括的な教育プログラムを実施します。

##### 1、フォーマル教育支援事業

- a) ジェネラルサントスの子どもたち(通学支援)
- b) ピキットの紛争の影響を受けた子どもたち(学校環境整備向上支援)
- c) ブストスに住む路上で暮らしていた子どもたち(通学支援)
- d) サンイシロの先住民族ドゥマガット族の子どもたち(通学支援)
- e) ジェネラルサントスの先住民族ブラアン族の子どもたち(給食支援)

##### 2、ノンフォーマル教育事業

##### 3、アドボカシー事業

#### II、ごみ処分場周辺での地域開発プログラム(P.11)

フィリピンのごみ処分場周辺のコミュニティに住む住民と医療・保健と生計向上の事業を継続します。

- 1、パヤタスでの保健・医療事業
- 2、パヤタスでの生計向上事業

#### III、相互理解を促進するプログラム(P.13)

日本・フィリピンにおいて相互理解を促進する事業をおこないます。

- 1、国際理解教育(開発教育)事業
- 2、フェアトレード支援事業

## B、事業実施の方針



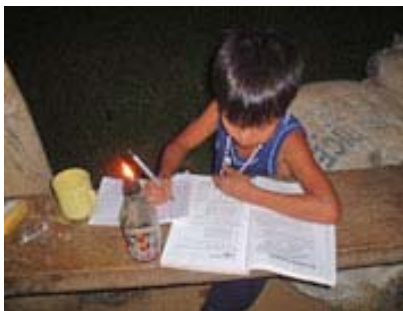
ICANは1994年「国籍・民族・性別を問わず私たち一人ひとりができること(ICAN)」を持ち寄り、「すべての人々が尊厳を持って生きられる社会」、つまり個人が理不尽な、直接的・間接的暴力(戦争や貧困)を受けることなく、それぞれの才能を十分に開花でき、コミュニティが文化に根ざした形で成長できる社会を目指して設立されました。



そのような社会を作り上げるためには、その社会の中で抑圧され続けてきた人々自身に対して私たちは一方的な「援助」や「支援」をおこなうのではなく、そのような人々が自分達の経験を表現し、自己の置かれている抑圧的な社会を理解(=意識化)し、共に立ち上がる仲間を作り(=組織化)、自分たち自身をエンパワメントする(力をつける)ことができる環境を共に築いていくプロセスが大切だと考えています。そこに、「人々の『ために』」ではなく、人々と『ともに』」歩んでいくICANの姿勢があります。そしてそれは「開発事業に住民が参加する」という従来の参加型開発ではなく、「彼ら・彼女らの発展に私たちが参加させてもらい、共に成長する」という意味でのICAN型参加型開発でもあります。



パヤタスで行ってきたごみ処分場周辺での地域開発プログラムでは、すでに職業訓練を経た母親達が自分達の生活を守る組織を作り独立しています。医療事業では、現在までに住民が主体の活動が定着し、2007年からは事業の運営も住民主体で行えるようになることを目指していきます。地域の保健委員としてコミュニティヘルスボランティア(CHV)の質の向上と、医療事業を将来的に実施することになる組織の強化、運営能力の向上が今後の鍵を握っています。



教育プログラムでは、今年までに虐待・放任や、戦争・内紛、差別また児童労働など経済的、政治的、社会的に重複して困難な状況におかれている子どもたちを「危機的状況におかれた子どもたち:Children in Crisis」とし、奨学金や学校給食、校舎の復旧などを中心としたフォーマル教育支援事業を実施してきました。経済的・政治的・社会的など様々な要因で抑圧されている子どもたちが、学校教育を通して基礎学力を習得することは、更なる社会的疎外阻害から身を守る上でとても重要だからです。



それと同時に学校教育制度だけでは、既存の価値観や社会規範を再生産する傾向があり、社会に蔓延する暴力の文化を変えていく人間を育てる土台とはなりにくいということもICANはこの13年間学んできました。子どもたちは、生まれた頃から物理的・社会的・精神的に隔離されたコミュニティで生活しているため、自らの境遇を客観的に観察し、社会での生き方を自由に選択できない状況にあります。日常化してしまった暴力は、結果的に非正義に寛容な文化を作り上げ、抑圧されている人々から声を奪っていきます。安定した平和を築く上で鍵となるのは、女性や子どもなど社会で抑圧されやすい立場にある人々が、いかに意識化を通し、社会の非正義を正していく原動力となるかであると考えています。その

上で重要となるのは、「代弁者」を通じて社会に問題提起する従来の「アドボカシー」ではなく、子どもたち自身が自分たちをエンパワメントし、直接的に既存の秩序や政策に影響力を及ぼせる場(スペース)を作ることです。こうした背景から、今年から「守られるべき存在」と考えられる子どもたちが、主体性をもって社会の声となるために、フォーマル教育と並行して、ノンフォーマル教育、アドボカシーを活発化させていきます。



相互理解を促進するプログラムでは、国際理解(開発教育)事業としてフィリピンと日本の人々の経験を共有し相互理解を深めることにより、お互いの社会の「豊かさ」や、その間に横たわる「構造」について学びあい、不公正な社会を主体的に変革していくことができる人材を養成していきます。2007年は、「子ども」と「教育」に焦点をあてて事業を展開していきます。フェアトレード事業では、パヤタスの女性グループ(SPNP)が製作した商品を、日本・フィリピンにおいて販売することによりフィリピン社会で不利な立場に置かれた人々の現状を伝えるとともに、不公正な貿易システムの理解、公正な貿易への変革を市民レベルで促進します。そのため、2007年は販売促進だけではなく、フェアトレードや国際貿易の勉強会の実施、フェアトレードを実施している他団体との提携も積極的に取り組みます。



ICAN はコミュニティの住民や子ども達、ICAN の会員の皆さんや、賛同者の皆さん、協力団体やボランティア、理事、スタッフ一人ひとりが「できること(ICAN)」を持ち寄り、手をつなぎパートナーとして社会の問題を解決するために集まる場(スペース)です。事務局は、より一層の説明責任を感じ、より皆さんに近づいて「ともに」ICAN という運動体の方向性を考えていきたいと強く思っています。よりよい ICAN、よりよい社会の為に、今年も皆様とともに歩いていきたいと思えます。



(特活) アジア日本相互交流センター・ICAN

事務局一同

## ICAN「パートナー」のコンセプト

「支援をする日本人」と「支援を受けるフィリピンのコミュニティに住んでいる人や子ども」という2項対立ではなく、「貧困」や「差別」、「非正義」、「非公正」(右図の中央)といった社会問題に対して国籍や年齢、経済的地位を超えてみんなができること(ICAN)を持ち寄り、「ともに」闘います。



## 2、事務局の運営

今年も、昨年に引き続き理事会、日本事務局、マニラ事務所の業務内容を見直し、適正な事務所間の仕事量をバランスよく配分し、団体としての運営システムの構築を行うとともに、会員や賛同者・ボランティアとのコミュニケーションを向上させていきます。

### A、日本事務局

#### 1)実施内容

団体の本部としてすべての事業の進捗状況を把握し、また安定した事業運営を継続的に実施していきます。特に07年は「顔が見える事務局」をテーマとして「会員の集い」を実施し、日本事務局の活動の理解の促進に努めると共に、主体的に資金を調達していきます。具体的には、以下の通りです。

- 1、フィリピンや日本の活動全般に関わる事業管理、事務、経理、報告等
- 2、運営資金開発
- 3、会員、協力者、一般からの問合せや対応
- 4、会員・賛同者の増加
- 5、訪問者への対応
- 6、理事会やボランティアのコーディネート
- 7、会報の発行(年4回発行)
- 8、インターン・研修生の受入と研修
- 9、他団体とのネットワーク作り
- 10、イベント・キャンペーン企画

2)実施予定場所 日本事務局(NPOプラザなごや)

3)実施形態 日本人専従スタッフ、理事、事務局ボランティア、会計スタッフ、インターン、ボランティア。

### B、マニラ事務所

#### 1)実施内容

現地法人(I-CAN FOUNDATION PHILIPPINES, INC.)を運営し、フィリピンにおける事業全般の効率的な管理・統括を行います。また日系NGOやフィリピンNGO、JICAフィリピン、在フィリピン日本大使館、フィリピンの大学などの機関との太いネットワークを活かし、フィリピンにおける社会開発事業全体の質の向上に貢献します。

- 1、事業の計画、実施、モニタリングと評価
- 2、活動全般にかかわる事務作業、会計作業、報告の作成
- 3、フェアトレードの販売促進、在庫管理
- 4、インターン・ボランティア等の受入
- 5、他団体(日系NGO、フィリピンNGO、JICA、大使館)とのネットワーク作りやコーディネート

2)実施場所 ICANマニラ事務所(ケソン市)、マニラ首都圏ケソン市パヤタス、リサル州アンティポロ市サンイシロ、北コタバト州ピキット、プラカン州ブストス

3)実施形態 日本人専従スタッフ、フィリピン人スタッフ、インターン、ボランティアが住民と共に実施

### C、ジェネラルサントス事務所

#### 1)実施内容

ジェネラルサントスにおける事業の計画、実施、モニタリングと評価や報告書作成をおこないます。6月よりジェネラルサントスの事業を担当するジェネラルサントススタッフを1人とし、マニラ事務所スタッフと共に事業を遂行していきます。

- 1、活動の計画、実施、モニタリング、評価
- 2、活動全般に関わる事務作業、会計作業、報告の作成

2)実施場所 ICAN ジェネラルサントス事務所(ジェネラルサントス市内)、ジェネラルサントス市内、及び郊外

3)実施形態 フィリピン人スタッフ2人(事業スタッフ2人)、6月以降1人

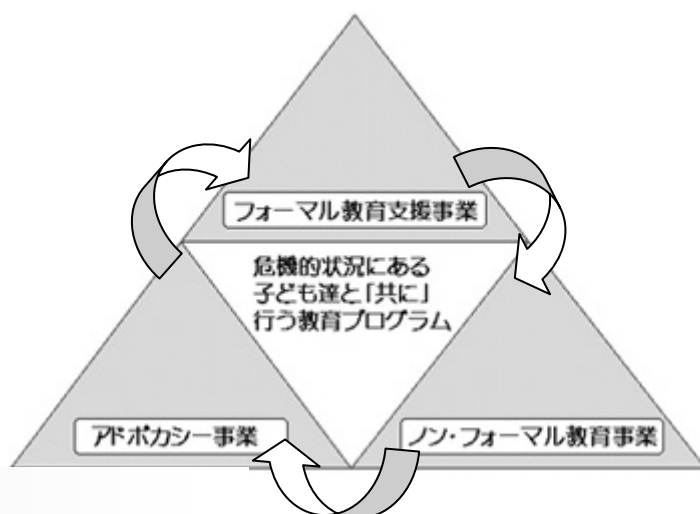
### 3、事業の実施に関する事項

#### A、特定非営利活動に係る事業

## I、危機的状況にある子どもたちと「共に」行う教育プログラム

*The Programme "with" Children in Crisis*

1994年から2006年まで当法人は子どもたちが学校へ通えるように奨学金や給食の提供を通して通学支援を中心に教育支援事業を行ってきました。2007年は、更に「子どもが主役」のプログラムを実現し、より包括的に子どもにとってよりよい社会をつくっていくために、「危機的状況にある子ども達と「ともに」行う教育プログラム」と題し、3つの領域で教育プログラムを実施していきます。



### ICAN教育プログラム:3つの柱

#### 1、フォーマル教育支援事業

フィリピンでは依然として経済的、社会的、政治的な理由で多くの子どもの学校教育へのアクセスが限られており、また統計にも表れない子どもが多く存在します。本事業では、「すべての子どもに教育を」をスローガンとし、昨年に続き「危機的な状況にある子どもたち」に対し、学校教育を中心とした教育を地域や個別の事情に適した形で支援します。

- A. ジェネラルサントスの子どもたち(通学支援)
- B. ピキットの紛争の影響を受けた子どもたち(学校環境整備向上支援)
- C. プストスに住む路上で暮らしていた子どもたち(通学支援)
- D. サンイシロの先住民族ドゥマガット族の子どもたち(通学支援)
- E. ジェネラルサントスの先住民族ブラアン族の子どもたち(給食支援)

#### 2、ノン・フォーマル教育事業

「危機的な状況にある子どもたち」が、お互いの経験を共有することで、まず「友達」の境遇を理解し、そこからフィリピンの社会、そして自らの置かれている環境を客観的に捉えることができるようになること(=意識化)を目指します。

#### 3、アドボカシー事業

「子どもたちが主人公」となって、自らの境遇を訴え、「ともに」立ち上がり社会を変えていく原動力となることを目指します。特にノンフォーマル教育で学んだ「子どもの権利」を社会に浸透させていくことを2007年は重点とします。

### 教育支援事業の方向性

・より「危機的な状況にある子ども達」へ。

学校に行けない子どもたちの中でも、特に経済的・社会的・政治的に不利な立場におかれている子どもたちに焦点をあてて活動を行っています。

・子どもたち「への」ではなく、子どもたちと「ともに」

大人から子ども、日本人からフィリピン人という一方的な支援関係ではなく、「子どもが主役」となり、子どもたちと「ともに」活動を行っています。

・「万人のための教育」に加えて、より包括的な教育へ。

今までの「万人のための教育(Education For All)」の考え方に加え、子どもたちが自分達の可能性を開花させ、社会を変えていくための原動力となれるように、より包括的な教育を重視します

#### 「万人のための教育」

世界では8000万人の子どもが初等教育に参加できないでいます。そのため国際機関、国家、政府援助機関、NGOが協力して、「すべての人に教育を」を合言葉に2015年までにすべての子どもが良質の無償初等教育を受けられることを目指しています。しかし、現状ではこの目標到達は厳しい状態にあり、世界中からより大きなコミットメントが求められています。

## 教育プログラム事業詳細



ジェネラルサントス事業地



ピキット事業地

### フィリピンにおける軍事衝突の件数が多い州(1986-2004年)

(政府軍とMNL Fの衝突)

マギンダナオ州

北コタバト州(事業地B)

バシラン州

北ラナオ州

南ラナオ州

南ダバオ州

南コタバト州(事業地A、E)

スルタンクラット州

スルー州

南ザンボアンガ州

C. Bautista(2005)

<ミンダナオ島地図>

北コタバト州(ピキット)  
南コタバト州  
(ジェネラルサントス)

## 1、フォーマル教育支援事業

### A、ジェネラルサントスの子どもたち(通学支援)

#### (1)背景と必要性

ミンダナオ島の南部に位置するジェネラルサントス市は、人口41万人、世帯数8万8千、バラングイ(行政単位)数26の地方都市です。ジェネラルサントスは漁業が盛んである一方、一部の資産家に産業が占有されており、世帯の約半数が経済的に困難な状態にあります。また政府軍と反政府軍の内戦の影響を受け、2007年1月も含め毎年爆破事件も発生するなど、治安情勢は依然として不安定です。

#### (2)概要

経済的な理由から学校に通えない子どもたちに対し、学校経費(授業料、PTA費、教材費など)・学用品費・制服代、靴代、交通費等の通学支援や緊急時の医療補助を実施します。

#### (3)事業のパートナー

4-12月 小学生45人、高校生65人、大学生6人、キッズパートナーの皆さん

\* 1対1のパートナー。2007年は116人を募集。キッズパートナー(会員)には、年2回の成長記録(プログレスレポート)を送付

#### (4)事業地

フィリピン国ミンダナオ島南コタバト州ジェネラルサントス市およびその周辺地域

(5)期間 1994年～現在

(6)実施形態 当法人が直接管理、実施。

### B、ピキットの紛争の影響を受けた子どもたち(学校環境整備向上支援)

#### (1)背景と必要性

ミンダナオ島、北コタバト州に位置するピキットは人口6万人、42のバラングイ(行政単位)をもつ町です。住民の85%をマギンダナオと呼ばれるイスラム教徒の先住民族が占めています。町では、ここ数年間で大きな軍事衝突が何度もおこり、また同時に自然災害の被害にも人々は苦しんでいます。生き残った子どもたちは、紛争が一旦落ち着いた現在、復学を望んでいます。しかし、被害による学校施設や学用品等の欠乏のために、多くの子どもたちが通常の学校生活に戻れないでいます。当事業では、子どもたちが学校に通えるという「日常」をとり戻し、平和構築に貢献できる人材となることを目的とします。

#### (2)概要

川沿いの7つ小学校でミニ図書館、校舎の改築、平和センターの設置、教材の提供等の学校環境設備向上や紛争予防の知識や技術を人々が獲得し、地域での平和構築を促進する中心的人材となるための平和教育を実施します。

#### (3)事業のパートナー

7つの小学校、及び2,000人の子どもと地域、キッズパートナーの皆さん

\*キッズパートナー(会員)には年2回、事業地や子どもの最新情報をニュースレターとして送付。

(4)事業地 フィリピン国北コタバト州ピキット市およびその周辺

(5)期間 2006年～現在(2008年終了時に再度事業評価を行い、当地での支援継続の可否を決めます。評価結果によって、当地での支援を終了し、より必要性の高い学校、あるいは地域へと支援を移動します。)

(6)実施形態 フィリピンNGO、Balay Rehabilitation Inc.と共同実施。



## C、ブストスに住む路上で暮らしていた子どもたち(通学支援)

### (1)背景と必要性

路上生活をしている子どもをはじめとしてフィリピンには、家族環境・養育環境が子どもにとって適切でない状況がしばしばあります。経済的困窮に加えて、養育機能を果たせていない家族環境にある子どもは、多大な負の影響をうけることになります。養育に適切な精神的・身体的・物質的ニーズを満たされず、子ども自らそのニーズを満たすために厳しい社会環境に身をさらさねばなりません。この事業では、教育への復帰を通して子どもを支援します。

### (2)概要

現在施設に住んでいる路上で暮らしていた子どもたちに学校経費(授業料、PTA 費、教材費など)・学用品費・制服代・交通費等の通学支援を実施します。

### (3)事業のパートナー

事業地:21人の子ども、キッズパートナーの皆さん。

\*キッズパートナー(会員)には年2回、事業地や子どもの最新情報をニュースレターとして送付します。

### (4)事業地 フィリピン国ブラカン州ブストス

### (5)期間 2006年～現在

### (6)実施形態

路上生活を送っていた子どもたちを保護し養育しているNGO、Bahay at Yaman ni San Martin de Porres(サン・マルティン・デ・ポレスの家と宝)と共同実施します。



ブストス事業地



ブストス事業地



サンイシロ事業地

## D、サンイシロの先住民族ドゥマガット族の子どもたち(通学支援)

### (1)背景と必要性

リサール州アンティポロ市にあるサンイシロ(面積6千5百ヘクタール)は電気や舗装道路などの社会基盤整備の整っていない村で、人口(5000 約人)の半数を先住民族のドゥマガット族が占めています。住民は米や野菜を作って生計を立てているが、収穫は一家の基本的ニーズを支えるのに十分ではありません。先住民族ということで、様々な社会的機会を奪われています。この事業では、教育を通して先住民族の地位向上を目指します。

### (2)概要

学校経費・学用品費・制服代、靴、かばん等の高校・大学通学支援を実施します。大学生には下宿代のサポートも行います。

### (3)事業のパートナー

ドゥマガット族の高校生 15人、大学生1人(確定は5月)

キッズパートナーの皆さん、サンイシロ会員の皆さん

\*キッズパートナーは新規会員を募集。キッズパートナー(会員)には年2回、事業地や子どもの最新情報をニュースレターとして送付。サンイシロ会員には引き続き会報で報告。

### (4)事業地 リサール州バランガイ・サンホセ、サンイシロ

### (5)期間 1999年～現在、2007年は通年。

### (6)実施形態 法人が直接管理、実施。



サンイシロ事業地

### ドゥマガット族

フィリピンでもっとも古くから住んでいる先住民族の1つとも言われています。ドゥマガットとは「海から来た」という意味で、もともと海岸部に住んでいました、サンイシロのドゥマガット族のように土地を追われ、山の中で生活している人達も多いのが現状です。



給食の風景



給食の風景



給食の風景

## E、先住民族ブラアン族の子どもたち (給食支援)

### (1) 背景と必要性

ミンダナオ島ジェネラルサントス市郊外の山村地域には、先住民族ブラアン族の村があります。ブラアン族はミンダナオ島中南部の山岳地帯に居住し、人口はおよそ11万人と想定されています。独自の文化・慣習を持ち、主に畑作や炭焼き、あるいは農業労働者となることで生計をたてています。しかし、フィリピンの多くの先住民族がおかれている状況と同様に、入植者による土地収奪が続き、彼らの生活基盤であった森林は業者により伐採され疲弊しているため、その生活は現在困難を極めています。「食」も十分に満たされない厳しさの中、子どもたちは空腹のため通学意欲を失い、あるいは親と共に農業労働にかりだされます。そのような状況下の子どもたちの通学を促すため、当法人は小学校で給食事業を行います。

### (2) 概要

小学校で、教師や保護者の協力のもと、子どもたちに栄養価の高い給食を提供し(年間40回)、就学の意欲を高め、地域における就学率向上に貢献します。

### (3) 事業のパートナー

ブラアン族の子どもが通う小学校2校とそこに通う子ども200人  
給食会員の皆さん

### (4) 事業地

フィリピン共和国ミンダナオ島南コタバト州ジェネラルサントス市郊外

### (5) 期間 1994年～現在

### (6) 実施形態 当法人が、対象小学校の教師、PTAと共同実施

## ICANの教育プログラム事業地分布地

C、路上で暮らしていた子どもたち  
(ブラカン州ブストス)

マニラ首都圏

D、サンイシロのドゥマガット族の子どもたち  
(リサール州アンティポロ市バランガイ・サンホセ、サンイシロ)

B、紛争で影響を受けたピキットの子どもたち  
(北コタバト州ピキット市およびその周辺)

A、ジェネラルサントスの子どもたち  
(ミンダナオ島南コタバト州ジェネラルサントス市およびその周辺)

E、先住民族ブラアン族の子どもたち  
(ミンダナオ島南コタバト州ジェネラルサントス市郊外)

## 2、ノンフォーマル教育事業

### (1) 背景と必要性

当法人の教育支援事業に参加している路上生活を送っていた子ども、先住民族として虐げられてきた子ども、紛争の被害にあった子ども、パヤタスごみ処分場周辺で生活する子ども、そして ICAN と交流のある JFC (日比国際児) や身体的障がいを持つ子どもたちは、それぞれに「危機的な状況」に置かれ社会的・政治的・経済的要因により、様々な能力が開花する可能性が制限されてきました。子どもたちが真に抑圧された社会から解放されるために、まず子どもたち自身がお互いの経験を共有し、「友達」の置かれている境遇を理解した上で、そこから社会や自らの置かれている環境を客観的に捉えることができるようになること (= 意識化) が必要だと考えます。

### (2) 概要

開発教育による意識化をおこないます。具体的には、キャンプやホームステイを通じて子どもたち自身の経験からお互いの状況や問題を、また課外研修を通して、子どもの権利など様々な社会問題を学びます。各事業地において、リーダーシップトレーニングや子どもの権利についてのセミナーを行い、子ども達の能力や知識を伸ばします。

(3) 事業のパートナー 危機的な状況にある子ども40人

(4) 事業地 フィリピン国マニラ首都圏周辺

(5) 期間 2007年～

### (6) 実施形態

当法人が直接管理、パートナーNGO Batis Center for Women, Bahay M apagmahal, PETA, PEPE 他と共同して実施。

### 「ノンフォーマル教育」とは？

「フォーマル教育」とは通常の学校内での教育、「インフォーマル教育」とは日常生活の経験に基づく組織的ではない教育を指す一方、「ノンフォーマル教育」とは、ある目的を持って組織的に学校外で行われる教育一般を指し、その内容は多岐に渡ります。当法人のノンフォーマル教育は、人権や子ども達一人ひとりの阻害されてきた経験を集め意識化を目指しており、フィリピンでポピュラーエデュケーション (Popular Education: 民衆教育) と呼ばれているパウロ・フレイレの教育学にとっても近いものです。

## 3、アドボカシー事業

### (1) 背景と必要性

社会的・政治的・経済的要因により、自己実現が阻まれている子どもたちは、自分の存在や経験に価値を見出すことができず、社会の中で声を出す場を奪われています。その彼らが「沈黙の文化」を打ち破り「主人公」となって、自らの境遇を訴えていくことは、社会変革の真の原動力となります。

### (2) 概要

子どもたち自身が社会にむけて自らの権利を訴え、同様な境遇にある人々の権利を代弁・擁護するためのスペースを作ります。具体的には、「国際平和の日」などに行われるピースウォーク、ピースキャンプ、シンポジウムなどの公共行動に子ども達が参加する。

(3) 事業のパートナー

危機的な状況にある子ども40人

(4) 事業地 フィリピン国マニラ首都圏周辺

(5) 期間 2007年～。

### (6) 実施形態

当法人が直接管理、実施。

### 「アドボカシー」とは？

「社会的弱者の立場に立ち、そうした人々を代弁して世論に注意を喚起したり、行政あるいは企業に直接働きかけて公共政策や企業行動に影響力を行使することなど」(『国際協力用語集』国際開発ジャーナル)とも定義されますが、フィリピンのような南国ではよく社会的弱者自身が力をつけて(エンパワメントして)自らが上述の行動をとることを意味します。

### 「沈黙の文化」とは？

社会の弱者が、様々な形態の暴力や抑圧をうけるうちに、それが日常化し、それに対して抵抗する力を失い、またさらにその暴力の存在すら、不可視化されていきます。そのようにして力に対して声をあげることすらなくなっていく状態を「沈黙の文化」(Culture of Silence)と呼びます。

## II、ごみ処分場周辺での地域開発プログラム

Programme of Community Development around Dumpsite

フィリピン共和国「生態的固形廃棄物管理法」9003 条により、パヤタスごみ処分場は、2007 年 12 月に閉鎖が見込まれています。(今まで何度も閉鎖が見込まれてきましたが、閉鎖は何度も延長されてきました。)これにより、5000 人～8000 人の雇用が喪失し、家族やコミュニティを含めると2万人ほどが影響を受けるといわれています。2007 年は、閉鎖による影響を少しでも緩和するために、より安定した保健・医療環境を提供すると共に、更に生計向上に力を入れていきます。

### パヤタスでの保健・医療事業、及び生計向上事業



巡回診療

#### ICANパヤタス事業の歴史

1997年～2000年

導入期

2000年

崩落事故後、緊急支援期

2001年～2002年

生計事業期

(住民と共に活動)

2003年～2006年

保健・医療・生計事業期

(住民が中心の活動)

2007年～2010年

処分場閉鎖に伴う時期

(住民が中心の運営)

#### (5) 期間

1997 年～現在。

#### (6) 実施形態

当法人が直接管理、実施。

#### (1) 背景と必要性

ケソン市のごみが集められるパヤタスごみ処分場は、悪臭と有毒なガスを放つ高さ 30m、広さ 16ha におよぶ巨大なごみの山であり、その周辺に住む住民たちは、結核や気管支疾患、感染症などの病気の危険に常にさらされています。経済的地理的および社会的理由から、健康を害しても既存の医療機関に行くことを躊躇する住民が多く、身近に医療関係者もいないため、助言を得ることができず、適切な治療を受けずに手遅れになるケースも少なくありません。またおよそ半数の子どもが栄養失調の状態にあり、下痢などの簡単に治療可能な病気による子どもの死亡ケースも毎年発生しています。

#### (2) 概要

マニラ首都圏ケソン市パヤタス地区にあるごみ処分場近辺のコミュニティにおいて、地域の健康促進の拠点であるコミュニティケアセンターを改築するとともに、この事業に積極的に関わる住民組織の形成を促し、地域に根ざした保健医療事業を行います。センターの改築では、事業の実施に十分、かつ適切なスペースを確保するとともに、住民が地域の問題について話し合える場所を設置します。住民組織の形成では、当法人の保健医療事業の運営に既に参加している住民をコアとして組織化するとともに自主運営に関する研修を行い、住民組織が3年後に本事業を当法人から引き継ぐ受け皿となることを目指します。保健医療事業では、医療サービスの提供だけでなく、住民、特に女性と子どもへの保健教育、地域の政府機関、住民組織、NGO との連携などに力を入れます。

これらにより、劣悪な環境で暮らす住民たち自らが、コミュニティケアセンターを拠点とした保健医療サービス提供の担い手となり、コミュニティが持続性のある高度な保健環境を持つことを目的とします。

また処分場閉鎖が最終決定になれば、大量の失業者が発生し、コミュニティの状況が一機に悪化します。それを防ぐために、2007年は生計向上事業も規模を拡大し実施していく必要があります。

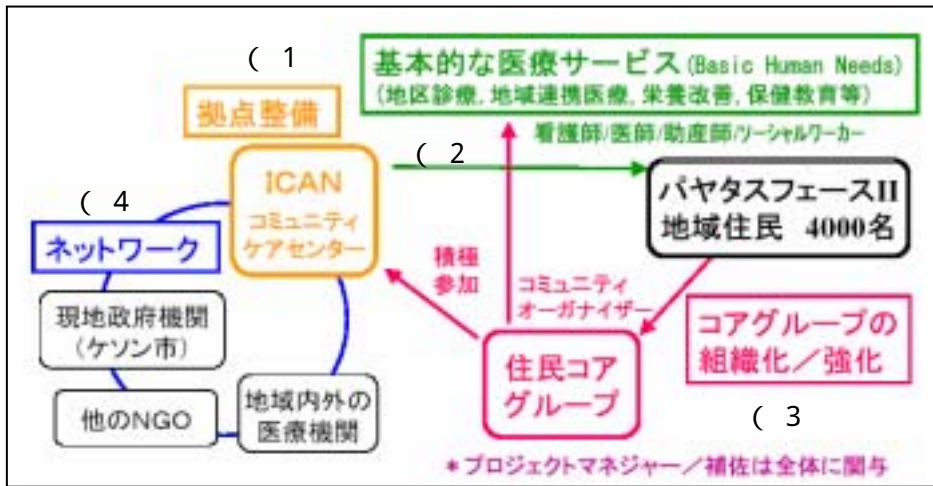
#### (3) 事業のパートナー

パヤタスごみ処分場周辺に住む約 4000 人、パヤタス会員  
外務省(日本NGO支援無償)、JICA、ケソン市保健局

#### (4) 事業地

フィリピン共和国マニラ首都圏ケソン市

## 活動内容詳細:



### (1) 拠点整備

コミュニティケアセンターの改築、整備

### (2) 医療サービスの提供

#### 定期診療

医師による定期診療(週2回、通年)

助産師による妊婦への診療(月2回、通年)

#### 巡回診療

公的医療機関との連携による地区巡回診療(月1回、通年)

予防接種(延べ400人)、寄生虫駆除(延べ400人、年2回)

結核対策(サギップ・ガバ:「肺を救おう」の意)

DOTSによる結核治療(成人、小児結核ケース)

#### 特別医療活動

集団子宮がん検診、割礼、集団体重測定

#### 外部診療

外部医療機関への医療委託、緊急医療費支援

#### 栄養改善

低体重児への栄養食提供(30人、月曜日～金曜日、通年)

母親クラス(月1回)

#### 保健教育

保健教育セミナー(患者、子ども、コミュニティ)

保健教育資料の配布(300家族)

#### 預かり保育サービス

08年1月開始に向け、07年は環境整備と担当者の訓練を実施

### (3) コアグループ・CHVの組織化と強化

コアグループの組織化(センターの運営を担う女性組織作り)

コアグループのキャパシティビルディング

CHVトレーニング

### (4) ネットワーキング

パヤタスで活動するNGO、政府機関とのネットワーキング

### (5) 生計向上

籠作りグループ支援

技術訓練実施

外部技術訓練参加支援



定期診療



保健教育セミナー



生計向上事業

#### 預かり保育サービス

パヤタスのコミュニティを巡回していると、多くの栄養不良の子どもたちが家で小さな兄弟(姉妹)と共に親の帰りを待っている光景を目にします。このような子どもたちは、親が働いている間、食べる食糧もなく、栄養状態が悪化し、最悪の場合死に至るケースもあります。ICANでは栄養改善活動を実施し、栄養不良の子どもたちに栄養価の高い食糧を提供していますが、親が1日中働いている子どもたちは、栄養改善活動の参加が難しく、栄養改善活動の限界となってきました。処分場の閉鎖が起これば、親達は更に遠いところへ仕事を探しに行くことになり、子どもたちの環境は悪化します。その為、2008年1月より、そのような子どもでも栄養改善活動に参加できるように「預かり保育サービス」を開始いたします。2007年はその準備として、環境整備とコミュニティから1名が担当者となるために訓練を実施します。

### III、相互理解を促進するプログラム



事務所訪問



自主企画ワークショップ



タガログ語講座



自主企画イベント

フィリピンでの社会開発事業地の人々と日本に住んでいる人々の経験をお互いに共有し、その社会、そして社会間に横たわる「構造」を理解し、そこから生まれる社会問題を共に1つ1つ理解・分析し、解決にむけて主体的に取り組むことができる人材を育成します。また同時に、私たちが住むアジアの国々に昔からある伝統的な「豊かな生活」を再評価し、私たちは「どのように共生・発展していくべきか」を見つめなおしていきます。特に、日本では一般の学生や市民にイベントやボランティア活動への参加を呼びかけ、アジアの人々の現実を理解し、「共に」生きて行くことを促します。具体的には以下の事業を実施します。

#### 1、国際理解教育(開発教育)事業

##### (1)実施内容

フィリピンでの社会開発事業の人々の経験を学校の授業や主催イベント等で一般市民、学生、各種団体と共有し、その社会、そして社会間に横たわる「構造」とそこから生まれる社会問題を共に1つ1つ理解・分析し、解決に向けて主体的に取り組むことができる人材を育成します。また同時に、私たちが住むアジアの国々に昔からある伝統的な「豊かな生活」を再評価し、私たちは「どのように共生・発展していくべきか」を見つめなおしていきます。

学校での授業、イベントでのワークショップ・講座実施

事務局への訪問者受入

自主企画1 講座・研修の開催

(連続講座、語学講座、ワークショップ、国内研修等)

自主企画2 イベントの開催

(ハロハロ祭、フィリピン人スタッフ訪日報告会、マニラ事務所日本人帰国報告会、ピキット事業地パートナー団体フィリピン人スタッフ訪日報告会、崩落事故追悼等)

教材・プログラム開発

\*プログラムのパッケージ作り、冊子作りなどを行う。

教材貸し出し

フィリピン子どもたちと日本の子どもたちとの交流事業

教員、NGO職員、学生、一般市民を対象にしたフィリピン研修の受入

2)実施予定日時 通年

3)実施予定場所 日本事務局、小中高校、名古屋国際センター、愛知県国際交流協会、JICA中部等

4)事業のパートナー 約1000人の市民・学生、ボランティアやインターン、学校やNGOや公的機関と共に実施。

## 2、フェアトレード事業

### j)フェアトレード支援事業

パヤタスの生計向上事業で裁縫の訓練や会計などの組織運営を学んだ女性グループ(SPNP)は2005年に住民組織として独立しました。その女性グループが製作したフェアトレード商品をマニラや日本において、バザー・通信販売・委託を通して販売します。また「フェアトレード」をより一般の人たちに広め、不公正な現在の貿易システムの理解・修正を促す活動も行います。

#### <マニラ>

##### 1)実施内容

2005年ICANから独立した住民組織SPNPが、現在仕入れから、製作、販売、資金管理、団体運営等をほぼおこなえるようになっていました。2007年は、フィリピン国内での市場やバザー参加の機会をSPNP自身が開拓し、継続して参加できるように促します。前年に続き、モニタリング・評価の補助、マニラでの販売手続きの補助、日本への販売の補助等をおこないます。

##### 2)実施予定日時 通年

3)実施予定場所 ケソン市パヤタスSPNPの作業所、マニラのイベントや学園祭や地域のバザー、店舗・個人への委託販売など。

4)事業のパートナー 住民グループ(SPNP)13名が中心となり、マニラ事務所(日本人専従スタッフ2名、フィリピン人スタッフ、日本人インターンまたはボランティア計6名)、店舗、地域住民、イベント実施者が協力して実施します。

#### <日本>

##### 1)実施内容

フィリピン(パヤタス、ミンダナオ)で製作された商品をイベントやバザー、中高校での文化祭、ネットを活用した通信販売を行います。また販売だけでなく、フェアトレードのしくみや、世界で起こる搾取の実情について理解を促進し、身近な消費活動を通してできるフェアトレードについて、認知度を広めるアドボカシー活動も行います。

##### 2)実施予定日時 通年

3)実施予定場所 日本のイベントや学園祭でのバザー、インターネットによる通信販売、店舗等への委託など。

4)事業のパートナー 店舗、イベント実施者と協力して実施する。

### B:その他の事業に係る事業

#### 収益事業

##### 1、リサイクルバザー事業

1)実施内容 一般市民から提供された品物をフリーマーケット等で発売する。

2)実施予定日時 年2回

3)実施予定場所 名古屋市内およびその周辺

4)事業のパートナー ボランティアや会場提供者の協力を得て実施



SPNPのフェアトレード製品



SPNPのお母さんと製品



大学での販売の様子



フジロックフェスティバル  
NGO ビレッジでの出展の様子